

決算概要

3年連続の黒字決算となりました

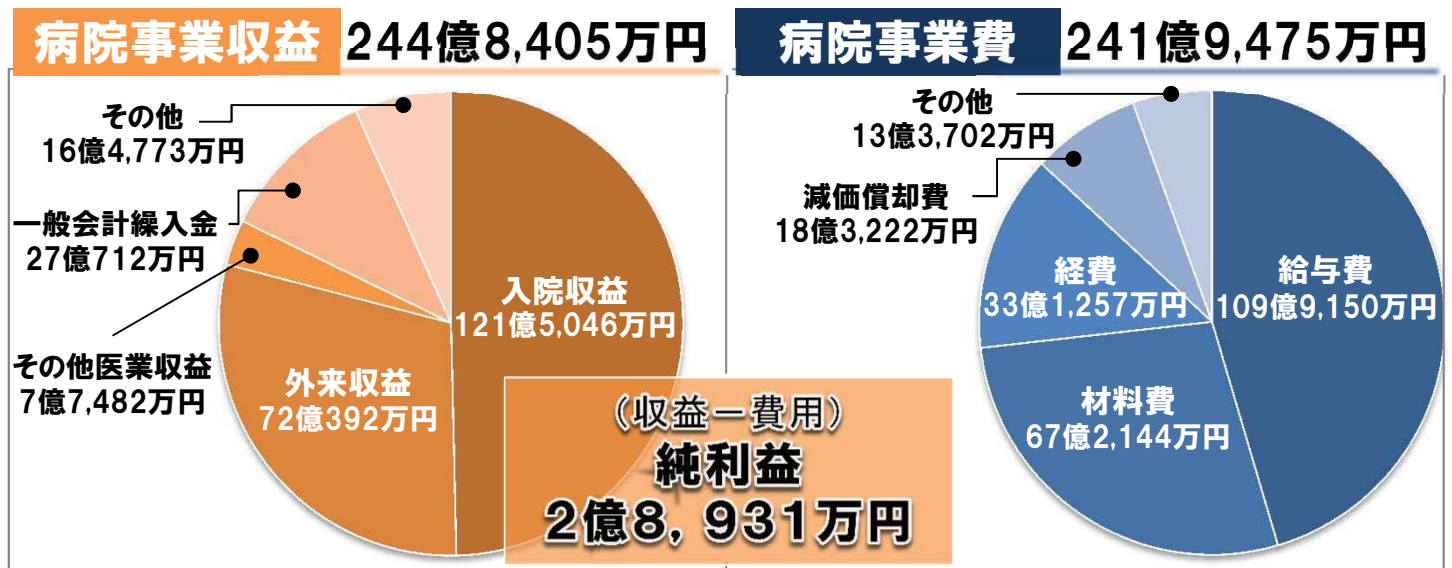
令和元年度は、「新大崎市民病院改革プラン」及び平成30年6月に策定した「大崎市病院事業病院ビジョン」に基づき、各医療施設において機能分担を図るとともに、地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。

本院では、暖冬の影響もあり、入院患者数や手術件数が減少となりましたが、500床をフル稼働させたことや地域の医療機関との機能分化及び医療連携を強化したことなどにより、重症患者さんの受入れの増加に繋がり、医業収益が増加となりました。一方、抗がん剤や血液製剤等の高額薬品や手術材料の使用量が増加したことにより材料費は増加したものの、経費や減価償却費等が減少し、病院事業全体の総収支は、新改革プランの目標値を上回り、3年連続の黒字となる2億8,931万円の純利益となりました。

また、鳴子温泉分院の新病院建設については、病院ビジョンに基づき、令和2年度内の竣工に向け建設工事に着手し、岩出山分院では、リハビリテーション施設や地域包括ケア病床の稼働により、医業収益が増加となりました。

なお、令和2年当初から、新型コロナウイルス感染症が日本国内で拡大したことにより、今後も市民の皆さま及び職員への感染の危険性や病院経営への影響などが懸念されますが、徹底した感染対策を実施するとともに、継続的に収支改善へ取り組んでまいりますので、これからもご支援賜りますようお願いいたします。

【収益的収支の状況（事業全体）】



【業務量（事業全体）】

		令和元年度	平成30年度	増減
入院	延べ患者数（人）	189,424	197,482	△ 8,058
	1日平均患者数（人）	517.6	541.0	△ 23.4
	病床稼働率（%）	76.3	77.7	△ 1.4
外来	延べ患者数（人）	342,048	350,606	△ 8,558
	1日平均患者数（人）	1,405.0	1,427.7	△ 22.7
健康管理センター利用者数（人）		14,205	13,915	290



これからも「市民が安心できる医療の提供」を念頭に、  
地域医療の維持確保に向けて貢献してまいります。